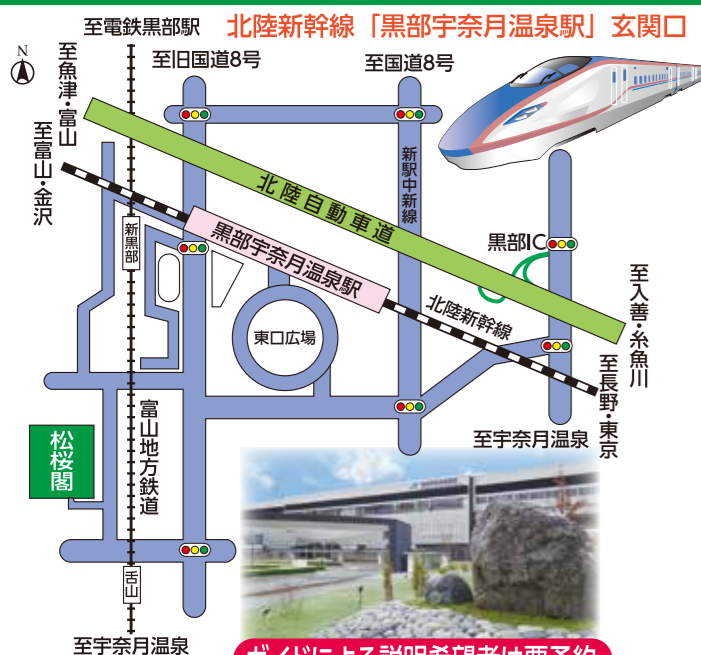


若栗への交通アクセス



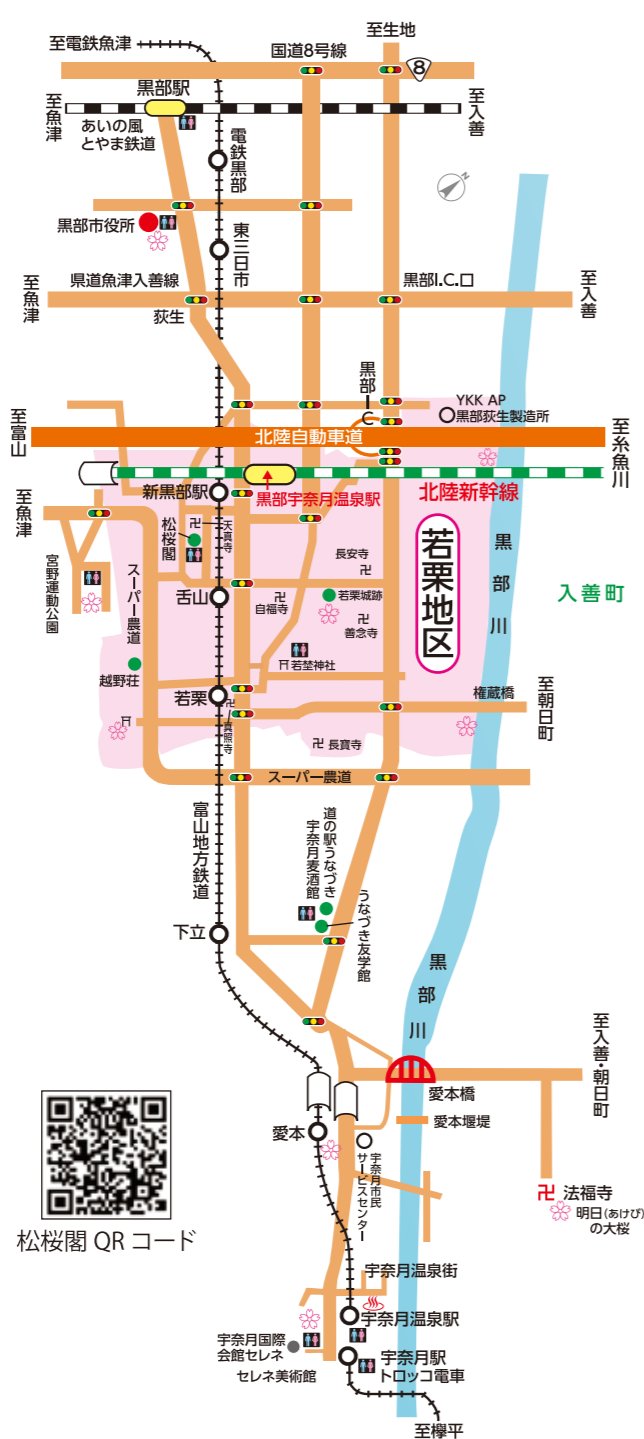
若栗

わかぐり WAKAGURI



◆問合せ・まち歩き申込みは
「若栗ふれあいセンター」 TEL&FAX (0765) 54-0225

黒部市・若栗地区



松桜閣 QR コード

歴史・文化のまち 若栗地区の黒部市指定文化財

● 建造物「松桜閣」

珍しい楼閣数寄屋建築の「松桜閣」

初代富山県知事国重正文(山口県出身)が明治16年(1883)から21年(1888)まで居宅としていたものを、若栗村の豪農西田豊二が購入し移築しました。この建物は全国的にみても数少ない楼閣の数寄屋風の建築物で、建築学的に大変貴重な遺構で、歴史的、文化的にも非常に価値の高い建物です。そのたまたまから「北陸の銀閣寺」とも呼ばれています。



● 名勝「松桜閣の庭園」

富山県を代表する名園 近江八景の趣



明治31年、西田豊二の離れ庭として造られ、1,530坪の回遊式大庭園でしたが、昭和7年富山市の庭師城川久治により近江八景の趣を取り入れた現在の庭園が完成しました。ゆるやかに曲がりながら流れ、琵琶湖を模した池に注ぐ一筋の曲水の小川、庭に象形の石や座禅石があり、象形の石は仏門に帰依して庭に入る人を見守っています。

● 史跡「若栗城跡」

黒部宇奈月温泉駅から黒部川方向に徒歩約10分、右側の水田の中に大きな土盛りの土手と木々が見えます。平地に方形の土塁を築いた城を「平城」といいますが、地元では「館の城」「館山」(タッチャマ)とも言ってきた若栗城跡です。貴族政治が衰退して地方武士団が生まれ、その領主が領地の要の場所に館を築いて生活した中世城郭の一般的な形態です。城跡の高い所に天満宮があります。



春は桜が咲き誇り、秋のお彼岸には彼岸花が咲き近隣の人々の憩いの場所となっています。

● 有形民俗文化財 「若莖神社の大幟一筋」

神社の大幟は、明治13年(1880)西田豊二が奉納したもので、縦20m、横2.8m、新川木綿18反を用い、一文字2mの「若莖神社」は西田豊二筆です。大幟は慶事の時に揚げられます。最近では2015年、北陸新幹線開通の記念に掲揚されました。



● 有形民俗文化財 「若莖神社の花火大筒」

明治のはじめから大正13年(1924)頃まで、秋祭りの10月17日に用いられた花火の筒で、13筒ありました。明治30年(1897)頃金沢から人力車で来村、宿泊して観賞したと伝えられ、踊りもそえられた祭事でした。



● 建造物「長安寺山門及び付属土塁」

山門は、江戸時代末頃の建で入母屋造、上部切妻、下部は寄棟造でバランスがとれています。境内をめぐる中世的な土塁と調和がとれ気品があります。付属土塁は、コの字形で東西81m、南北59m、黒色土で盛られ、高さ3m内外、平地形館の遺構と思われる。



若莖神社の天井絵・絵馬

若莖神社拜殿・本殿の天井には武将や草花が色鮮やかに描かれています。宝物殿には多くの古い絵馬が収蔵されています。



「若栗」の名前の由来

むかし、承和2年(835)仁明天皇のころ、若栗の東方にある黒部山のかなたから一かたまりの雲気(雲や霧の移動)があらわれては、その瑞雲(めでたいしるしの雲)がこの地をさしてくるので、「これは神様のことわりであろう。」と天子様にお伝えしたところ、「この地を開墾すれば、居村の幸福になる。」と知らされた。一同歓喜しい、八体の神様をまつり、開墾に励めども、原野渺渺(広々とあはしのないようす)としたうえに、神代から巨大な栗の木がありました。

栗の木の高さは、500尋(500m以上)もあって、その影は、朝日がさすと新治のはて(生地の方)まで、夕日がさすと三味の郷(舟見の方)までとどくほどで、植えた作物はみのらず、とうとう切り倒すことになりました。すると、そのあとから数万本の栗の若芽が生え繁茂したので、承和9年(842)、村の名を若栗と改めました。



(若栗村史より転載)

若莖神社の縁起

天平18年(746) 越中の守大伴家持の命により八座の神をまつる。
承和2年(835) 八社に神殿を造る。同九年若栗と称す。
天慶元年(938) 黒部川の大洪水で三座の神を流失し、五座を大越山に移し、熊野神社と称してきた。
正徳年間(1711~16) 中御門天皇の時、現在地に社殿を建立し大越山熊野社より五座遷座し五社大神と号してまつり。のちに中古の社号をもって若野社(莖は野の古字)と号唱す。〔越中国古文書〕
嘉永7年(1854) 西田武右衛門が雨乞い祈願に「吉野山観桜之絵馬」を奉納。



↑吉野山観桜之図/嘉永七年(1854)



松桜閣

富山県黒部市

若栗

わかぐり WAKAGURI

みどころマップ

北陸新幹線
「黒部宇奈月温泉駅」玄関口



若莖神社天井絵



社神聖若

若栗みどころマップ

お勧め みどころコース／駅からの距離

● 黒部宇奈月温泉駅 → 250m 松桜閣 → 300m 黒瀬川発電所

● 黒部宇奈月温泉駅 → 250m 松桜閣 → 600m 若栗城跡 → 400m 長安寺 → 善念寺

● 黒部宇奈月温泉駅 → 1,200m 若莖神社

見所ひとくち案内

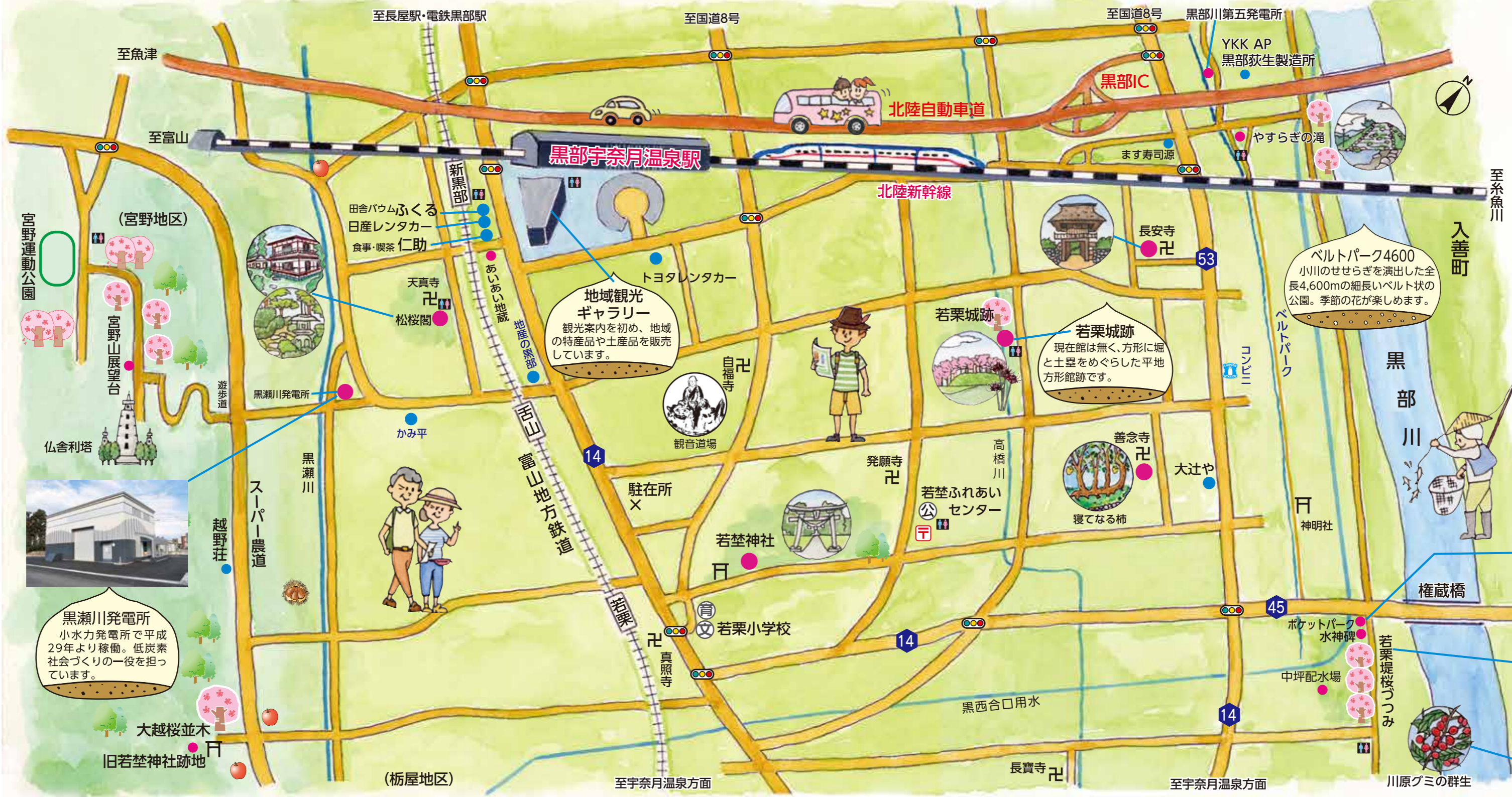
しょうおうかく 松桜閣…… 初代富山県知事の私邸で全国的にみても数少ない楼閣数寄屋風の建築物で、建築学的に大変貴重な遺構で、その佇まいから「北陸の銀閣」とも呼ばれています。

わかぐりじょうし 若栗城跡…… 現在館は無く、方形に堀と土塁をめぐらした平地形館跡で、中世城郭の一般の形態をなしています。春は満開の桜が見事です。秋には彼岸花が咲き誇ります。

ちょうあんじ 長安寺…… 山門は、江戸時代末頃の建築で入母屋造、上部切妻下部は寄棟造でバランスがとれています。境内をめぐる中世的な土塁跡が残っています。

ぜんねんじ 善念寺…… 倒れた柿の木の幹が四カ所で根づき、幹から伸びた四本の枝が幹になり枝を茂らせ、二種類の柿をならせる「寝てなる善念寺の柿」がみられます。

わかじんしゃ 若莖神社…… 天平18年(746)越中の守大伴家持の命により八座の神をまつる古い神社。その後黒部川の氾濫などにより3体流失。五社大神となり、のち若莖神社となる。江戸後期の大きな絵馬が残っています。



宮野地区
宮野運動公園
宮野山展望台
遊歩道

黒瀬川発電所
小水力発電所で平成29年より稼働。低炭素社会づくりの一役を担っています。

大越桜並木
旧若莖神社跡地

田舎バウムふくる
日産レンタカー
食事・喫茶 仁助

かみ平

地域観光ギャラリー
観光案内を初め、地域の特産品や土産品を販売しています。

自福寺
観音道場

若莖神社

若栗小学校

若栗城跡
現在館は無く、方形に堀と土塁をめぐらした平地形館跡です。

善念寺
寝てなる柿

大辻や

ベルトパーク4600
小川のせせらぎを演出した全長4,600mの細長いベルト状の公園。季節の花が楽しめます。

川原グミの群生
黒部川河川敷には野生のグミが群生しており、常願寺川と同じく全国的に珍しいものです。

観音道場 **自福寺**
坐禅道場
(要予約)

善念寺の「寝てなる柿」
その昔、行いを悔い改めた夫婦が蓮如上人の弟子になり、上人様が植えられた柿の木の育っている若栗に寺を建てた。この寺が今の「ぜんねっさま」(真宗大谷派善念寺)である。約500年も昔のことになるが、この寺の庭に植えられた柿の木が、北を向いて茂り、田が陰になるので、地主が、「申しわけないが、この柿の木ジャマになるので切らせてもらえんもんか。」と頼んだ。寺は、「それほど陰になって、ジャマなら切らっしゃい。」と返事されたので、早速次の日の朝、ノコギリなどを持って行って見ると、柿の木が東を向いていた。「これじゃ、田にも道にもジャマにならんから、切るのをよそう。」と、そのまましておいた。それから、いつの年か大風が吹いて柿の木が倒れたけれど、そのまましておいたら五メートルほどの幹が四カ所で根づき、幹から伸びた四本の枝が幹になり枝を茂らせ、二種類の柿をならせるようになった。それから村の人たちは、この柿の木を「寝てなる善念寺の柿」というようになった。



寝てなる柿

権蔵橋
ポケットパーク
大正5年の吊り橋から、たび重なる洪水にあい、昭和12年寺島権蔵氏らの力で全長541m、幅6mの木橋をかけ、昭和42年永久橋に、平成14年に現在の橋となりました。人名の橋名は珍しく、縮尺の橋桁が展示されています。

若栗堤桜づつみ
540mの若栗堤(黒部川左岸堤)に平成元年7月認定された「桜づつみ」です。